

(案)

令和 6 年 1 2 月 1 0 日

京丹後市長 中山 泰 様

京丹後市総合計画審議会

会長 上羽 柚夕

第 3 次京丹後市総合計画について（答申）

令和 6 年 8 月 2 7 日付け 6 政策第 4 8 1 号で諮問のあった第 3 次京丹後市総合計画の策定について別紙のとおり答申します。市長におかれては、本審議会の意見を十分に尊重され、新たな総合計画を策定されるとともに、市民等の参加と協働をもとに、基本計画に掲げる施策を推進されることを期待します。

記

1 答申にあたって

第 2 次京丹後市総合計画（以下、総合計画という。）は、1 0 年間の将来を展望し、市の基本理念、目指す町の姿指標などを示した「基本構想」と、当構想を実現するための基本的な施策を体系的に示した「基本計画」で構成されており、令和 6 年度で計画期間の終期を迎えます。

当審議会においては、各分野の代表者 30 人及びアドバイザー 2 人で構成する委員により、現行基本計画の進捗状況を検証しつつ、新たな時代潮流を捉えた課題認識のもと、京丹後市の目指すべきまちの姿について議論しました。また、その目指す姿に向けまちづくりを進めるために、今後重点的に進めていかなければならない施策は何かということを中心に、中学生、高校生や女性、若者を対象とした「未来創生ワークショップ」の意見も踏まえ、多様な観点から議論を深め、総合計画をとりまとめました。

本審議会の意見が十分に尊重された新たな総合計画が策定され、市民をはじめ、多様な主体の参画のもとに、市民総幸福の最大化に向けた施策が展開されることを望みます。

2 京丹後市総合計画審議会における主な意見等

総合計画の策定や今後の施策展開にあたって留意すべき事項等について、京丹後市総合計画審議会における主な意見等をもとに、以下のとおり申し述べますので、ご配慮いただきますようお願いいたします。

(1) 総合計画の推進にあたって

- 目指すまちの姿の実現につなげていくためには、誰が読んでも分かりやすい総合計画となるように努め、行政だけでなく市民や企業、団体等も共に課題を認識し、民間と行政がそれぞれの役割で連携して施策を実行していくことが重要である。
- 良い計画ができて、認知されなければ意味が無いので、さまざまな機会や手段を活用して効果的に伝える方法を検討いただきたい。

(2) その他個別意見・提案

- 「幸福」を目標に掲げることは、行政が個人の主観的な価値観に踏み込んでくるといった印象を与える可能性があるため、丁寧な説明に留意いただきたい。
- 4つの基本戦略はすべてが重要であるため、順番よりもすべてが循環しながら高め合うことが重要である。
- 「かせぐ」は、「はぐくむ」「ささえる」「つなぐ」にもつながる土台になる部分である一方で、高齢者などの「かせぐ」という言葉が適さない人を排除するような印象を与えてしまう可能性もあるので、丁寧な説明に留意いただきたい。
- 稼げない人を排除するのではなく、そういう人も含めて地域が一体となって稼ぐ基盤を「はぐくむ」ことが重要である。地域が一体となって稼ぐことは、対外的にも魅力的なまちに映り、Uターンや移住者などの外部から人を呼び込む循環が生まれるなど、「ささえる」「つなぐ」にも、つながっていくと思われる。
- 高校生の視点でも、未来の京丹後市が、お金が無いイメージよりは地域が一体となって稼いでいるまちであってほしいと思う。
- 新たな取組や、事業を継続するためには、稼ぐことが重要であり、そのためには、事業所間、産業間の連携や、グローバルな視点でマーケットを勉強するなど広い視野が必要である。
- スタートアップ企業など新たな事業創造の流れが盛り上がっている中で、実証的

(案)

に事業を行う場を探している企業もあると思われるため、そういった企業の誘致を促進するなど、本市と関わる人が増える取組を進めていただきたい。

- 1次産業は、豊かな食資源を活かした6次産業などの農商工連携だけでなく、飲食店や観光業との連携を促進し、新たな販路づくりを進めていく必要がある。また、外向けの観光だけでなく、地産地消などにより、市民自身が魅力を再認識することも重要である。
- 農業は、都市部への地理的な距離、少量多品種でまとまった物量が無いという課題があるため、地域商社などをより充実させるなど農業者をまとめる施策を検討いただきたい。
- 観光は、いかに来てもらうかといったプロモーションの強化が前面に出てしまうが、様々な地域資源をいかに磨き、持続可能なものにするかが重要である。
- 環境保全の観点では、ブナ林などの貴重な自然に触れる機会の創出や、ごみ問題に関する啓発の充実などを図り、地域の魅力や資源を再認識できる取組を進めていただきたい。また、「自然豊かなまち」と聞いてイメージできるまちを参考にするなど、引き続き新たな取組を考えていただきたい。
- 健やかで生きがいのある暮らしを実現するために、例えば公園でダンス、街角でスケッチ、どこからともなく聞こえる音楽、楽しく道を散歩、ジョギングなどそれぞれが好きなことを楽しめる街づくりを進めていただきたい。
- 芸術の点では、先人が作った作品が倉庫などに埋もれていると聞く。現在も陶芸や染織など、様々なアーティストがいる。それらに、もっと身近で触れていただける機会を作って、その技術や文化を繋いでいくような取り組みが必要。
- 情報化社会が進展する中で、誰一人取り残さない地域にしていくためには、情報を取りこぼさないことが重要であるため、世代間での交流による人と人とのつながりを作っていくことが重要である。
- 防災の分野では、観光客等の外から来た人に対する対応、災害時の対応というのが、観光業者の中でもなかなか共有もできていないし、仕組み化もできていないというような課題感がある。
- 地道に学習会をするなどして防災の情報を地域に届けるということはもちろんだが 実際避難をしたことがないとかいう人がほとんどの中で、その避難所に例えば女性の支援が取り入れられているか、実際に運営してみないと分からない

(案)

こともあるので、避難運営体験みたいなことを地域でやることが大切である。

- 共生社会を実現するためには、一人ひとりが障害者への理解、心のバリアフリーに向けた取組を強化していく必要がある。
- 未来創生ワークショップにおいて、高校生からは娯楽施設がないといった意見があったが、空家や空き工場、学校跡施設など、今ある遊休資産をそうした施設として活用していくことも考えられる。
- 子育て世代だけでなく地域全体での交流により、子育て世帯の孤立防止や、子育て世帯への直接的な支援だけでなく、子育てしやすい環境づくりにより主体的に子育てに取り組んでいく取組が重要である。
- ICT等の活用により、場所を選ばずに様々な教育を受けることができるなど、一人一人の可能性を広げていく取組を進めていただきたい。
- 本市の将来を担う未来人材を育成していくためには、子どもたちが産業やまちの魅力、多様な生き方に触れる機会を充実させていくとともに、親世代、大人たちがまちのこと正しく理解し伝えていくことや、誇りを持って仕事をしている姿、いきいきと生活を楽しんでいる姿を見せていくことが重要である。
- 若年層の職業の選択肢の拡大を図るために、高校などで地域内での起業家による講演や地域内企業と交流する機会を作るなど、授業だけにとどまらず進めていくことも大事だと思う。
- 高校生の立場としての意見だが、地域の人と関わることでその地域に魅力を感じると思う。人口減少を克服し持続可能なまちをつくっていくために、丹後の自然、産業、文化、歴史などの資源に触れる機会、世代間を超えた交流を積極的に作り、郷土愛を育んでいくことが重要である。

3 おわりに

審議の過程においては、上記意見のほかにも、各委員をはじめ、未来創生ワークショップに参加した中学生、高校生や若者、女性から様々な意見・提案がありました。それらについても十分ご留意いただき、今後の施策展開に活かしていただくとともに、京丹後市にあふれる可能性の実現に向け、次期基本計画に掲げる施策が着実に実行されることを期待しています。

(案)

■京丹後市総合計画審議会委員名簿（敬称略）

所 属	役 職	氏 名	審議会役 職
京都府立丹後緑風高等学校	3 年	上羽 柚夕	会長
公立大学法人福知山公立大学 地域経営学部	准教授	杉岡 秀紀	副会長
特定非営利活動法人エコネット丹後	副代表	味田 佳子	副会長
京都府漁業士会	幹事	池田 満	委員
京都府丹後農業士会	会員	松宮 とも恵	委員
丹後地区森林組合	業務課 係長	中村 俊彦	委員
京丹後市観光公社	副理事長	中川 正樹	委員
京丹後建設業協会	副会長	山崎 高雄	委員
丹後織物工業組合	理事長	田茂井 勇人	委員
丹後機械工業協同組合	副理事長	平田 勝彦	委員
京丹後市商工会	筆頭理事	西途 陽子	委員
京丹後市老人クラブ連合会	会長	吉岡 光義	委員
社会福祉法人 京丹後市社会福祉協議会	会長	藤井 美枝子	委員
北丹医師会	会員	今津 正史	委員
一般社団法人京丹後市スポーツ協会	副会長	小谷 順一	委員
京丹後市文化協会	副会長	角田 吉高	委員
京丹後市 PTA 協議会	家庭教育委員長	田中 良尚	委員
京丹後市国際交流協会	副会長	上田 美知子	委員
京丹後市区長連絡協議会	幹事	川口 勝彦	委員
京丹後市女性連絡協議会	理事	丸田 智代子	委員
一般社団法人 京丹後青年会議所	事務局 次長	岡本 美香	委員
京丹後市障害者団体連絡協議会	理事	和田 直子	委員
連合京都北部地域協議会たんご地区協議会	議長	西原 肇	委員
特定非営利活動法人京丹後コミュニティ放送	局長代理	阿辻 凜太郎	委員
京都北都信用金庫 峰山中央支店	事務長	谷 清子	委員
中村心児司法書士事務所	代表	中村 心児	委員
ゆるりら	代表	大槻 美穂子	委員
一般社団法人 Sustainable Game	副代表	岡本 竜保	委員
京都府立峰山高等学校	1 年	大島 舞歌	委員
京都府立清新高等学校	2 年	井藤 湊都	委員

〔アドバイザー〕

iU 情報経営イノベーション専門職大学 イノベーションマネジメント局	アドミッション ユニット長	稲岡 克彦	
京都府丹後広域振興局地域連携・振興部	部長	村上 章	

〔委員随行者〕

京都府立丹後緑風高等学校	2 年	安田 楓	
京都府立清新高等学校	2 年	室川 幸成	

(案)

■第3次京丹後市総合計画 検討の経緯

＜審議会＞

① 第1回京丹後市総合計画審議会

日 時：令和6年8月27日（火）午後4時30分～午後7時00分
場 所：峰山総合福祉センター コミュニティホール
出席者：委員27名、アドバイザー2名、委員随行者2名、事務局6名
内 容：1. 会長及び副会長の選任について
2. 諮問
3. 第3次京丹後市総合計画の策定について
4. 総合計画及び総合戦略の進捗状況について

② 第2回京丹後市総合計画審議会

日 時：令和6年9月27日（金）午後4時30分～午後6時30分
場 所：京丹後市役所峰山庁舎2階 201～203会議室
出席者：委員24名、アドバイザー2名、委員随行者1名、事務局6名
内 容：1. 第3次京丹後市総合計画の策定に向けた市民アンケートについて
2. 若者暮らしアンケートについて
3. 第3次京丹後市総合計画策定に向けたグループワーク

③ 第3回京丹後市総合計画審議会

日 時：令和6年10月30日（水）午後4時30分～午後6時30分
場 所：京丹後市役所峰山庁舎2階 205会議室
出席者：委員21名、アドバイザー2名、委員随行者2名、事務局7名
内 容：1. 第3次京丹後市総合計画の策定に向けた「未来創生ワークショップ」の開催結果について
2. 第3次京丹後市総合計画（素案）について
3. 第3次京丹後市総合計画策定に向けたグループワーク

④ 第4回京丹後市総合計画審議会

日 時：令和6年12月5日（木）午後7時00分～午後9時00分
場 所：峰山総合福祉センター コミュニティホール
出席者：委員●●名、アドバイザー1名、委員随行者1名、事務局4名
内 容：1. 第3次京丹後市総合計画（案）について
2. 答申書（案）について

(案)

＜未来創生ワークショップ＞

① 峰山高等学校ワークショップ

日 時：令和6年9月13日（金）午後2時30分～午後3時30分

場 所：峰山高等学校

参 加 者：1年生 約120名

② 若者ワークショップ

日 時：令和6年10月4日（金）午後7時00分～午後8時45分

場 所：峰山総合福祉センター コミュニティホール

参 加 者：市内若者等16名

③ 女性ワークショップ

日 時：令和6年10月5日（土）午前10時00分～午前11時45分

場 所：峰山総合福祉センター コミュニティホール

参 加 者：市内女性6名

④ 清新高等学校ワークショップ

日 時：令和6年10月16日（水）午前1時40分～午後3時30分

場 所：京都府立清新高等学校編

参 加 者：2年生約40名

⑤ 網野高等学校ワークショップ

日 時：令和6年10月16日（水）午前1時40分～午後3時30分

場 所：京都府立丹後緑風高等学校網野学舎

参 加 者：網野高等学校 企画経営科 1・2年生約40名

⑥ 中学生ワークショップ

日 時：令和6年11月29日（金）午後6時30分～午後8時00分

場 所：峰山総合福祉センター コミュニティホール

参 加 者：市内の中学校に通う中学生3名